

イラク後送業務隊の活動報告



小情報 2015

18. 7. 27
イラク後送業務隊

イラク後送業務隊活動報告 (7月27日)

1. 人員・装備の状況

○ 人員・装備：異状なし

2. 27日(木曜日)の活動

区分		業務内容
後送業務	コンテナ作成	0個コンテナ作成
	洗車	1両後送準備終了 (燃料タンク車×1)
	本邦後送	○コンテナ船によるコンテナ70本(実20、空50)の後送(30日出航予定)
	その他	
その他		<p>○キャンプバージニア施設撤収業務 施設返納準備を実施</p> <p>○サマーワ後送班等戦力回復(12名)</p> <p>○別紙第1「RSU活動状況(7月27日)」</p>

陸幕用		7月27日現在	
KWからの装備品等の後送状況把握(全体像)			
コンテナ			
KWから本邦へ後送するコンテナ総数【581本】			
コンテナ詰め数【220本】		空数【361本】	
終了【107本】	今後実施【113本】		
後送済 【56本】		後送済 【0本】	
車両			
KWから本邦へ後送する車両総数【230両】			
洗車終了【103両】		今後実施【127両】	
後送済 【27両】			

統幕・陸幕用		7月27日末現在						
3. 後送業務の進捗状況								
区分	計画		実績 (c)	進捗度		残数	備考	
	総数 (a)	当該日迄 (b)		総数比 (c/a)	計画比 (c/b)			
コンテナ	開梱 (コンテナ数)	337	284	284 【0】	84.3%	100%	53	
	コンテナ詰 (点数)	99,451	21,623	21,491 【0】	21.6%	100%	77,828	
	後送 (点数)		7,412	7,412 【0】	7.5%	100%	92,039	
車両	洗浄	230	88	103 【1】	44.8%	117%	127	
	後送		27	27 【0】	11.3%	100%	203	
※ 点数については、弾薬を除いた点数 【】内は当日の実績で内数								

4月28日(金曜日)の活動予定

区分	業務内容
後送業務	コンテナ作成 0個コンテナ作成 (整備日)
	洗車 0両後送準備完了 (整備日)
	本邦後送 0コンテナ船によるコンテナ70本(実20、空50)の後送(30日出航予定)
	その他
その他	0サマーワ後送班等戦力回復(12名)

4月29日(土曜日)の活動予定

区分	業務内容
後送業務	コンテナ作成 6個コンテナ作成 (車両×2、通電×1、火器×1、施設×1、化学×1)
	洗車 6両後送準備完了 (燃料タンク車×1、マイクロ×1、高機動車×4)
	本邦後送 0コンテナ船によるコンテナ70本(実20、空50)の後送(30日出航予定)
	その他
その他	0キャンプバージニア施設撤収業務 役務業者によるコンテナ(40本)及び車両(44両)の輸送 0サマーワ後送班等戦力回復(7名)

5 週間後送計画及び実績							
区分	7/22	7/23	7/24	7/25	7/26	7/27	7/28
	土	日	月	火	水	木	金
コンテナ作成	車両×2 通電×1 施設×2	車両×1 需品×1 施設×2	車両×1 通信×1 需品×1 衛生×1	車両×2	車両×3 通信×1	車両×3 通信×1	0
	車両×2 通電×1 需品×2	車両×1 通信×1 需品×2	車両×2 需品×2 衛生×1 通信×1	車両×3 通信×1 施設×1	火器×3 通信×3 需品×2	0	
洗車	5	4	4	0	4	4	0
	6	3	16	4	8	1	
後送	コンテナ	武器×3 弾薬×6					
	トレー						
	車両	27					

※下段には実績を記入

5 週間後送計画及び実績							
区分	7/29	7/30	7/31	8/1	8/2	8/3	8/4
	土	日	月	火	水	木	金
コンテナ作成	車両×2 通電×1 火器×1 施設×1 化学×1	車両×2 通信×1 需品×3	車両×1 通信×1 需品×2 施設×2	通信×1 衛生×1 需品×1 施設×1	車両×3 通信×1 需品×2	車両×3 通信×3	0
洗車	6	6	6	2	6	6	0
後送	コンテナ						
	トレー						
	車両						

※下段には実績を記入

6. 日々ミーティング

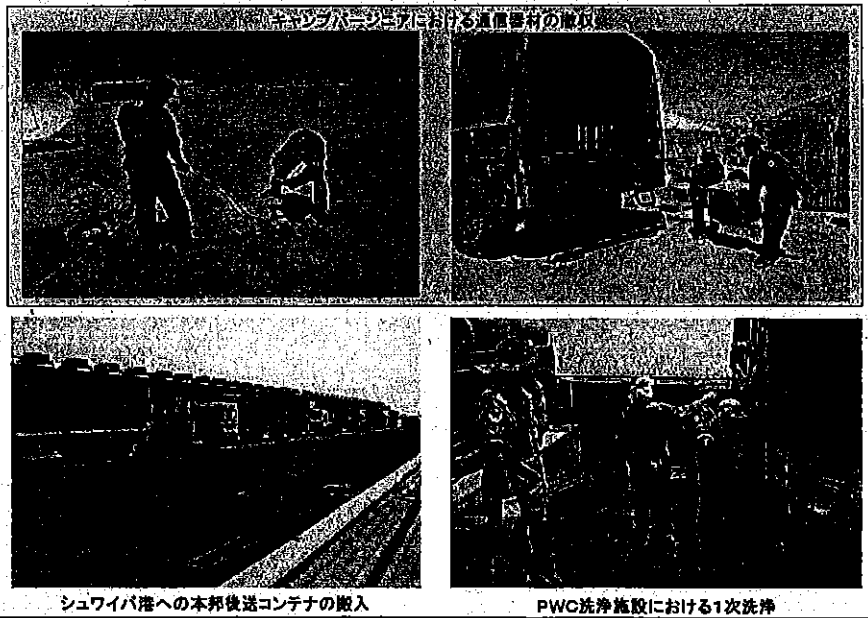
○ 治安情勢：別紙第2「クウェートの治安状況等(7月27日)」

○ RSU長指導事項

- 本日のTV会議により我々の帰国時期を含め、帰国までの業務予定が概定した。計画に基づき、焦らず確実に業務を実施せよ。その際、洗車の要領、ワーカーの運用及び隊本部においては業務の実施要領等について、常に問題意識を持って改善・工夫を重ね、効率的な業務の実施を心がけマンネリを防止せよ。

RSU活動状況 (7月27日)

別紙第1



クウェートの治安状況等 (7月27日)		別紙第2
区分	内容	備考
クウェートの治安状況等	1 在クウェート日本大使館等 警戒情報 (1) 警戒レベル [REDACTED] (2) 日本国外務省渡航安全情報:クウェート全土「十分注意」(N/C) 2 [REDACTED]倉庫-RSU宿泊場所等活動地域:異常なし。 3 クウェート国内での車両運行に及ぼす影響 交通事故は、ほぼ連日発生している事から車両運行時、特に次の点に注意 (1) R6, R40, R80上の速度超過による追突事故、突発的な歩行者の横断 (2) 前方走行するトラックのバーストによるタイヤの飛来(7月以降は、道路の高温に加え、ほとんどのトラックは再生タイヤ着用のため、タイヤはバーストしやすい状況) (3) ロータリー交差点の進入・退出及び測道から本線への進入時 (4) 砂塵及び砂嵐発生時、視界不良、安全速度の厳守 4 宿泊場所及び[REDACTED]倉庫等での活動に及ぼす影響 クウェート全土で反米勢力がテロを敢行する可能性は排除できず、宿泊場所及び[REDACTED]倉庫等への移動間は警戒する必要がある。 5 その他 付紙「クウェート国内で米軍部隊攻撃を企図したテロリストの有罪判決の合憲性について」	N/C N/C N/C N/C アラブタイムス(7/27)
	1 天気:晴れ 2 活動地域の温度(PWC洗車場) :最高+55℃(昨日比+1℃) 最低+41℃(昨日比+1℃) 3 明日も今日と同程度の軽易な砂塵が発生すると予想。30日以降は、着も着く見込み (7/27更新) (7/27更新) (7/27更新)	7/27更新

「クウェート国内で米軍部隊攻撃を企図したテロリストの有罪判決の合憲性について」(1/2)		付紙
【趣旨】 「26日、クウェート最高裁判所は、米軍部隊を攻撃する計画を企てたテロリスト容疑者に対する有罪にした法律は合憲であるとの判決を下した」記事がアラブタイムス(7、27付)に掲載されたところ、その記事の内容の骨子を紹介するもの 【記事内容骨子】 1 クウェート最高裁判所の判決 米軍部隊を攻撃する計画を企てたテロリスト容疑者に対する有罪にした法律は合憲であるとの判決 2 これまでの経緯 (1) 2005年1月 8名の活動家と4名の警官の死亡を伴う警察側とテロ容疑者との先例のない衝突の後にテロリストを逮捕。テロリストは「半島のライオン」と称するテログループと判明 (2) 当時の検察側の主張 テロリスト達は、「クウェートにおいて米軍部隊の攻撃を計画し、そのグループのメンバーは、武器を保有し爆破に使用できる化学剤を持っていた。」 (3) テロリストの弁護人の主張 イラクでのジハード(聖戦)を準備していた。 (4) 刑事裁判所の判決 34人の被告の内6名に死刑の判決を、21名には懲役刑の判決。6名は無罪。1名は癌で死亡 (5) 検察側、有罪を受けた被告側とも刑事裁判所の決定に上訴 (6) (控訴を受けた)控訴裁判所は、34人の被告の審問を止め、有罪が合憲か否か憲法裁判所に問いあわせ (06年5月)		

**「クウェート国内で米軍部隊攻撃を企図したテロリスト
の有罪判決の合憲性について」(2/2)****3 判決に対する最高裁判所の応答ぶり**

有罪判決は合憲であるとした説明は実施しない。

【関連事象】

「半島のライオン」の逃走者が昨年12月のテロ容疑者処刑に対し、クウェート国内で報復テロを宣言(現時点で、実際には何も起こっておらず)

【評価】**1 「半島のライオン」の逃走している者達の今後の可能行動**

- (1) 何も行動せず (E-1)
- (2) 報復テロを宣言(昨年の12月と同様に宣言のみ) (E-2)
- (3) 実際にテロを実施 (E-3)

2 結論

(1) E-1・E-2についてはどちらも判定できない。E-3は他より劣る。

(2) 理由

- ア 昨年の12月に報復テロを宣言してから実際には、何も行動が起こっていない。かつ、逃走していると言われている者達の動向に関する情報はこれまでのところなし。
- イ 最高裁判所の判決直後であり、具体的なテロ情報はこれまでになく、米軍及びクウェート政府の警戒レベルは今のところN/C。
- ウ クウェート政府の取り組み及び米軍の警戒活動等から、テロリストにとって容易にテロを起こせる環境でない。
- (3) いずれにせよ、今後も逃走者の動向に関する情報収集に努めるとともに、イスラエル・レバノン情勢からクウェート住民の一部にも反米感情が存在する事も念頭に置きつつ米軍基地周辺の経路上あるいは米軍基地立ち入り時、周辺状況に注意する必要がある。